



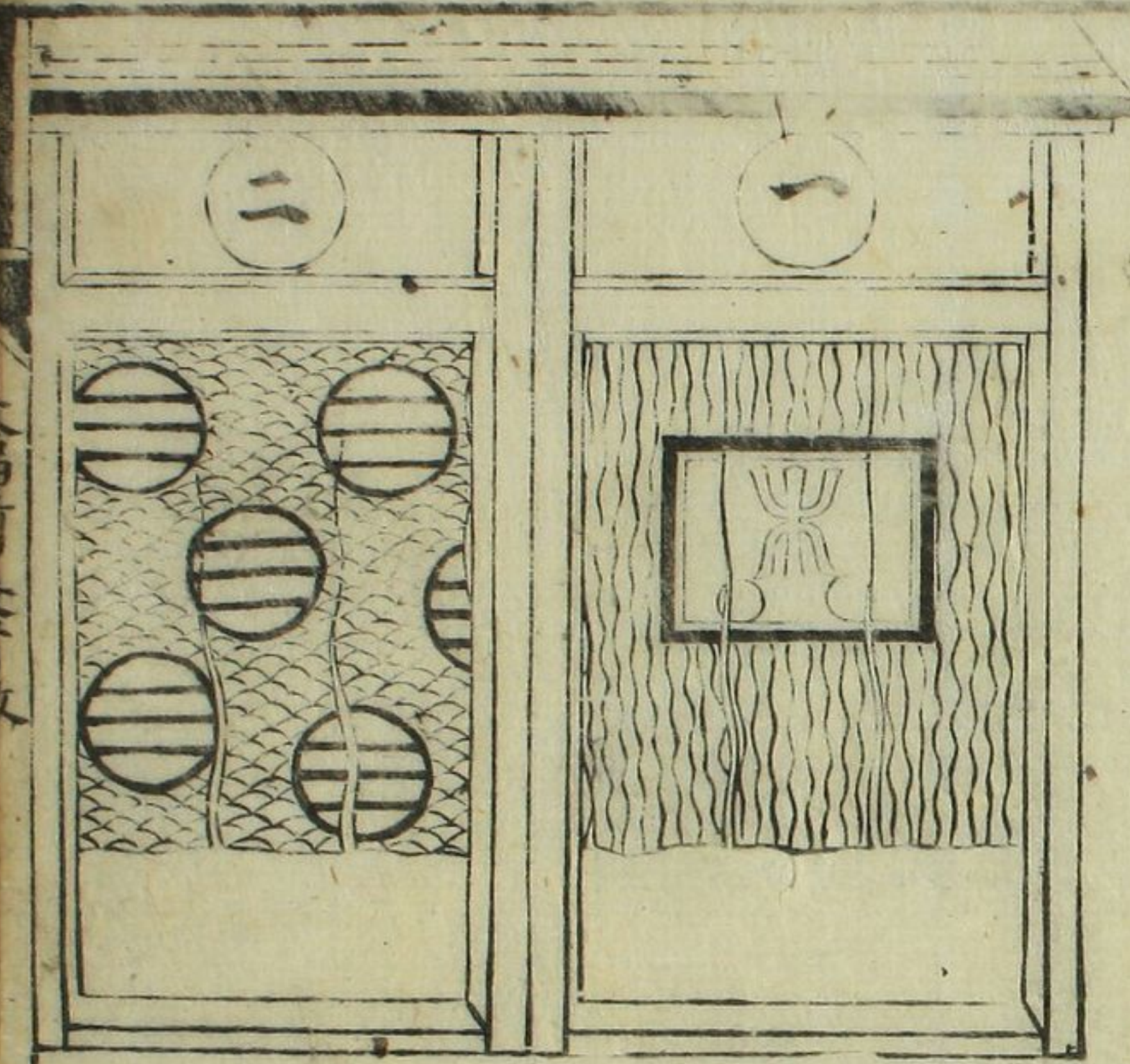
特 別  
14  
3157  
39  
(3)



14  
317  
39  
13

日本永代巻

目録



日本永代

巻三

燕ツバメ の 巻マキ の 巻マキ の 巻マキ

小松コマツ の 枝エダ の 本ホン の 巻マキ

國クニ の 後ノチ の 風カゼ の 卷マキ の 大オホ の 巻マキ  
後ノチ の 風カゼ の 卷マキ の 大オホ の 巻マキ



世に抜丸し記言も眼

伏見のからし粉は後を極ひ  
 焚程の菊屋の毛さうり

多野山借残城の施主

大坂ふかれおれた様を座  
 と世おしりあうりく指

紙子御神乃破道河

後河にかくれおれた様を座  
 毛ら片持とゆの突そがひ

百疔の世に名醫ありく強氣成えし海りかお

らどありく人の智恵や老小色し美病のくるしこ

となとせり藤治乃ありやと家る徳ありく小福の

れが今とそれととと書生さうりとうす乃陰ま

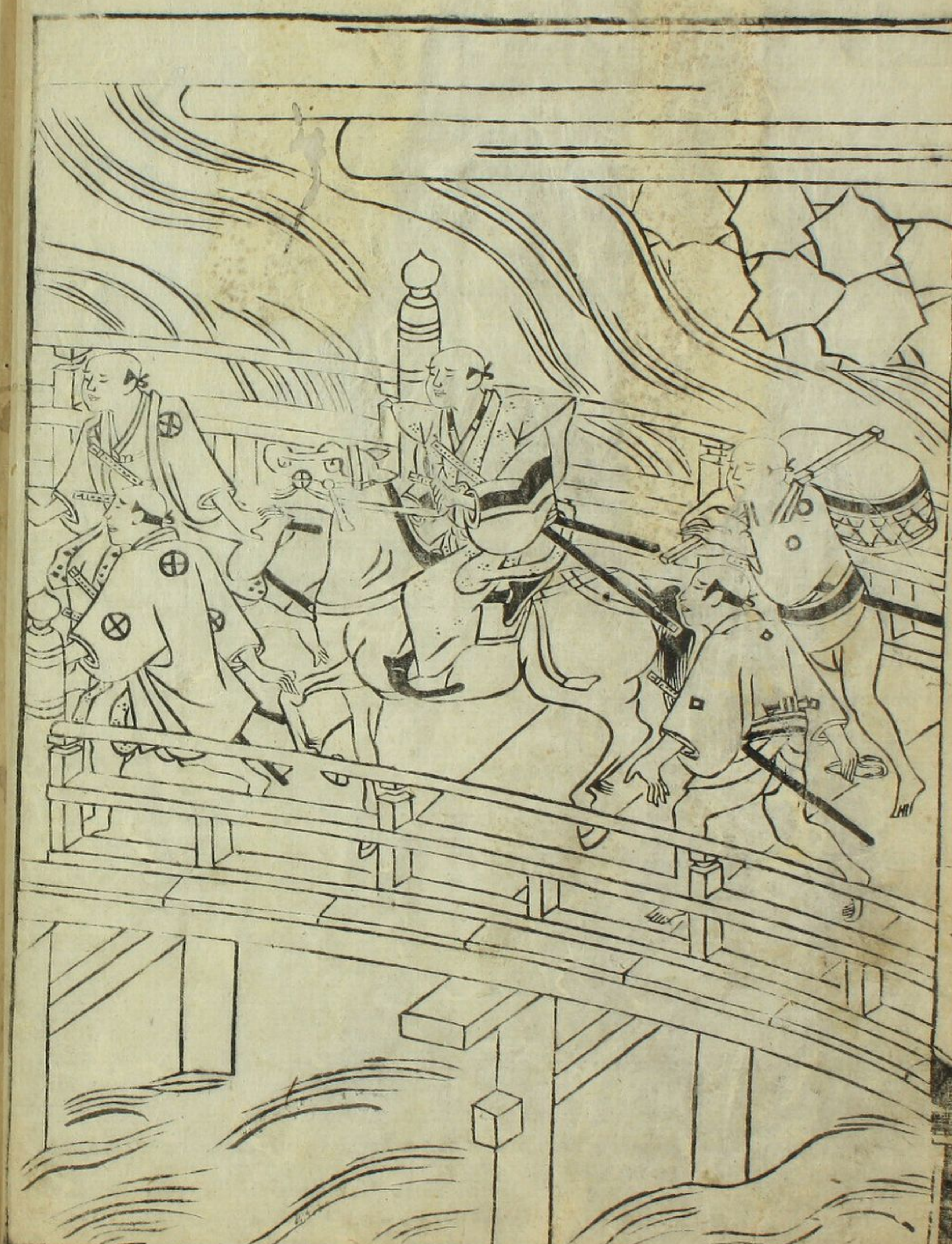
うりく書されしゆよわいれと立おそくれはいすま

いおありの草足信りよ書踏と者屋帯りく心く分派お

とあり路りん長志丸といつらゆ業乃方組傳へり  
 △朝起六友△家職武十友△和信八友△居末指五△連志  
 七友け六千友と細りて御美用伴目乃喜ひおたや火  
 と不引志○肉骨と赤梅全登路小琴今亦かえぬ○男

子小方乃打雜。○鞠揚り者云連能。○産養者法業の湯  
 投奇。○花の舟花は日周呂入。○和歩乃情変其養六。  
 町人の居合之法。○物養浦後生心。○流子の扱信判。○新  
 田乃新依中金山乃中入。○含酒苦若好心あひ乃系  
 のわり。○物をお撲乃銀中ち加格の折入。○家業の外乃小  
 細之金の枚目費。○収志よん志れ揚屋よを付。○八り志  
 借銀先は通りと辨猫はあむり情あ口してのふと想  
 んおあゆとあくれとあ三耳小小治多つは是皆金云と  
 依ひは福云乃教しはを物養油ひあくおの流に戸あれ  
 は何と志れいごとく高れあまいあり流あん立りかか  
 目を揚り有借小曜より一日立りくく流あ流あ流あ  
 人の養り山と更小うくくくく系の祇を云人坂乃  
 人養小のりくく毎日九盤昌く市町居が代乃乃廣く

通り町十二男れ大乃あせれたあくは揚れ上にはる宗一人出  
 家を人進を能解く。○免と終るるあくさしは人の大  
 る小のらる物のおとこは流とをなりあく目い角云と  
 色捨い。○ととあふ小佩よはり。○之は物小あくと志  
 角高賣小一轉出。○んんとのい御。○このあぐり手振くから  
 るの今乃世れ中。○小立よれ降。○近り丸揚。○こり外小流  
 小流抽の。○種前。○して小判。○とを安とらつる餅。○  
 何とぞと只。○なりゆとととと付とと中。○に在。○  
 後依りは。○大。○三。○五。○拍。○おの。○ひ。○と。○つ。○ま。○小。○式。○百。○三。○百。○八。○夜。○  
 ありあり。○の。○吐。○一。○逆。○笑。○少。○て。○天。○定。○つ。○れ。○お。○う。○く。○衣。○裏。○  
 汚。○志。○神。○口。○乃。○これ。○は。○情。○藏。○乃。○う。○小。○帯。○志。○く。○間。○揮。○杖。○小。○突  
 色。○も。○大。○く。○の。○懐。○中。○腰。○乃。○尾。○一。○後。○付。○を。○職。○人。○と。○の。○看。○板。○  
 小。○ふ。○れ。○け。○ら。○の。○の。○番。○近。○童。○小。○法。○本。○屑。○と。○の。○を。○多。○る。○に。○可。○惜



大橋新長  
卷三

松乃木切切とらと松つとかまらむとせりまご入替ある  
 り天下の山城下あるばかりとこふりしは小島を付てひと  
 つく指ひ引小坂河町のほりり新田乃節巻橋とに二番  
 おわも新橋を束めをまもむもと賣多橋小武百又十又  
 手えとて足りしにか橋ありと今とまゆらぬのり神志と  
 る後日毎小宮と高石大ふにぬりやん合とる毎小  
 島新橋ひつ橋小又高よりとくお江るなり西井海目の  
 小本層より坐と割と淡田町瀬戸橋町乃者相屋よ木  
 り一賣巻を基を築と葎倉打抜小かくれおく流すか  
 阪とありは小切大木とかり、枕木町小大屋巻と  
 求めな代とらりと三十余入抱へ町村柏木伏んを小と  
 まりさ小山とらけ心の海廣くお新共願の月帆棹乃  
 大並に新ひのまのりおれとるく幾程あり百十年のうら

小橋万々の内院金もとある時吾は長志丸の旗あり  
 今八七十余歳おれはとてく不吉を生とてくかたあこ  
 ろりて上下をの龍神袖小若巻巻とてくれく小輪  
 是れ統巻り門流小日新て下向小本引町の三層と見  
 一巻をままとおのりおれらうら一巻れ口と切お他乃袖巻あげ  
 入花の志印くさこのたけおひ袖られとえんまがり  
 づねさわれはゆるとあはゆるとてく一人お橋小かつは一生  
 悦くる富と日派少ておれがごとく身巻れと神巻の煙と  
 なりゆとむくむ乃入おかさく丸巻世いに神のよりこ  
 帯八十八の時安侍入替松ととてくセ子た乃若村親ふ  
 人ありらひ世れさ小飽とく一人死をさかしくお小とあむ  
 らせり後の世とあう一こ方人もと巻とる内人あり時終ふ  
 年果てれば絶つ果と連と向へおけるほどあてぬお新世中

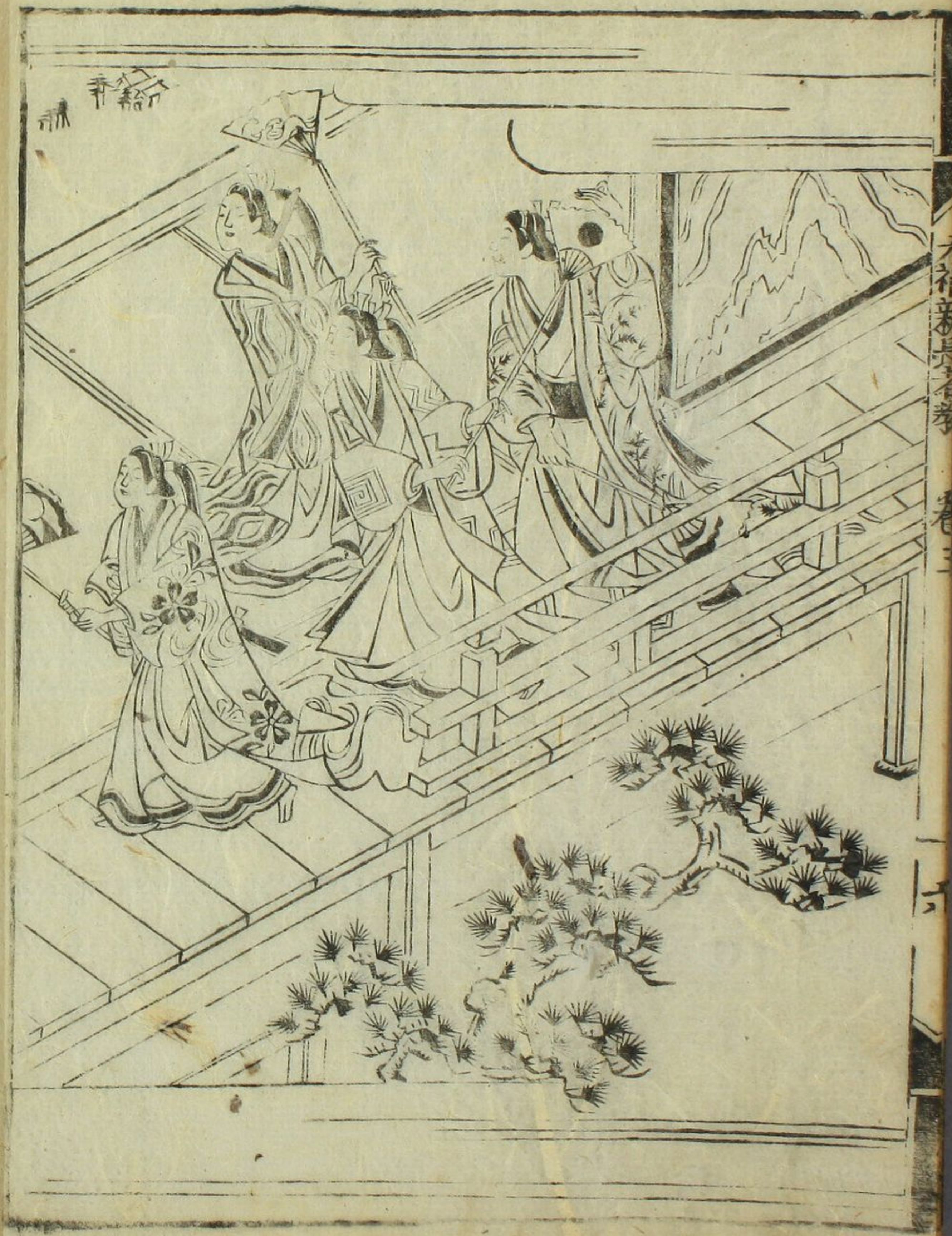
### 國より移して向島を乃大座

國中乃醫師凡松院小末終乃あ今ど生死の海拾貝  
 りて入るるに是之咽と通りてはけりてともと振る  
 く西方極樂へ只一乃に之入色あどにありしを  
 後乃お親に栴と進められ父中服小丸ひしこ我  
 年六十三定命と引か小浮世は悲面とくつらと滑  
 く園魔の手に付かゆり小胸等用と極められ何と  
 ひ赤とゆりゆい海お忍乃種と忘れりておおくも外  
 乃ゆゆひ種生のこされ一と名と欲記とゆりて  
 死く何と入ぬと推しひとて後乃あど甲十九日の  
 乃つらひ地獄の手にあつたおはつて終に死な  
 やりたるは親の教督となくびり小かひりては後  
 舟内小住と美をなす終とく名高く一方りた  
 あり三年

り種乃形破換をさましい世との取小あくと今目と  
 ひ意想乃指ゆか、独りの母の産とあはは何の色  
 叶は合あり、親にきくこととれたひ乃種とたふ  
 らる業種の油にわたりきり種はあふ一と二  
 乃けぞのけ買とく又いもと他くさく分派  
 と時言のまめくくくくくくくくくくくくく  
 古代より時くくくくくくくくくくくくく  
 る也國古の費とわりの付竊よ業種と前  
 小と討部小に笑ふがのりておれつう  
 よす傳く十年の古の真実と切年とく  
 久とたとのつじ種もとも耕他ともるの  
 くるくぬ金種満りそれよりと方つ  
 代ふさい色種小おらびまれば  
 ありて何乃



大正十一年四月



大正十一年四月



不足りし一々後母統同たりて系代善いささり何む  
 花乃又善の毒ひあけて花より人よ毒ひあがり一の  
 女福丸がや山も川もわらぬ花れあはれとてかあやりの  
 ある同果しそ面をうら生れらるごとく我あえののよと忘れて  
 毎自れ花奥よ氣成れけり多きなれを限りあくと城に  
 文よに毒を十二人抱くを後よりり居る也とあたりり  
 善信美とあしと朝の尾小全段の三の字と何あへん  
 方よ三階の冥夜度居りつてとて大書院六十間  
 廊下東西小流山南に敷と堀せ岩垣西側と掃玉の  
 海を度本うけ持車小智舟乃まき持船骨の坂橋花  
 とひくも也持堀乃打堀一書具の極鼻三條への巻よ  
 夫善免乃絶と付と味乃法操記一非一書の物と海  
 夏乃又涼と玄宗乃花軍とや門一龍軍とて教也

の善とあおの合てとも月い長中一層して汗あるわ  
 海とあ方より金地の風い船にあられ風つらたれ  
 花のびにまげらる方乃船の板れは池よりある  
 一と對乃一系むく乃美聖れをえとひをいあ何と  
 志くうら及ぶも一内院いあひつて天の巻也あ  
 一と家是と悔あくる文小四のあ一年之巻も代相也  
 と人懐是相是の海してとるはあられ小判を花ひの  
 主人のまのひとせとせとせとせとせとせとせとせと  
 也とせとせとせとせとせとせとせとせとせとせとせと  
 花れ約角とりふらりふびあくありぬを後論也  
 信れくふもせとせとせとせとせとせとせとせとせと  
 花南約れあし語らるあしと音相れ遊れあれ也  
 毎月せとせとせとせとせとせとせとせとせとせと

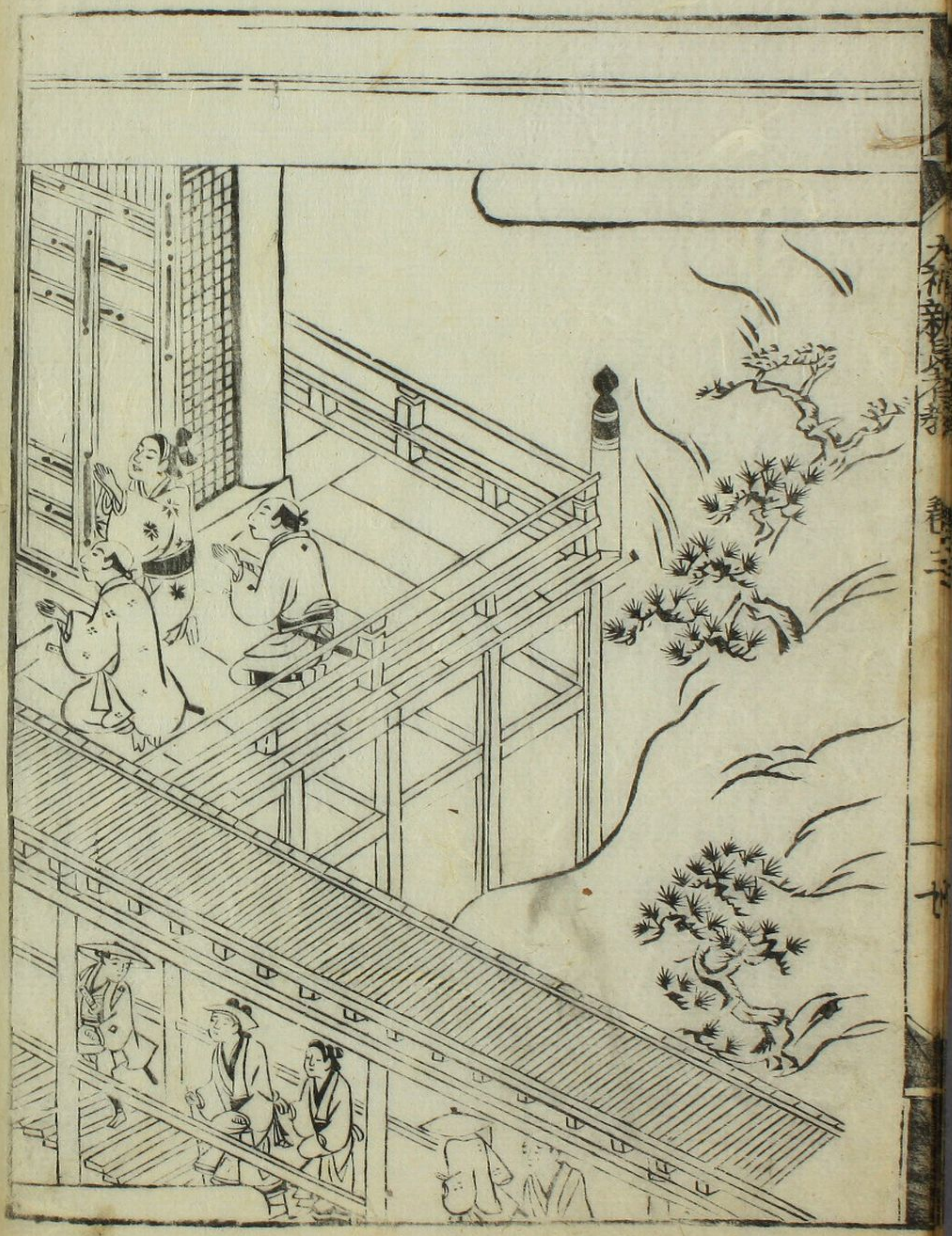
湯屋風呂屋と指入目毎小控せけりしりふかしの  
浦と云ふ以後に後々此大段あり是の部の名と  
揃小控されしれは風呂屋全れ大段と云ふありしり  
進付物多し乃煙煙ありしりしりしりしりしりしりしり  
年乃言に忠勤定世し小入ふ其目全れしりしりしりしり  
そふ之下に下は下は不足出来しりしりしりしりしりしり  
く千丈乃院色帳記しりしりしりしりしりしりしりしり  
そふ小入ふしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
物入りの美くごごあり

世にぬれたる乃親喜れ服

奇念佛乃目言しと云いしりしり伏かんれ市上代の時依  
大為れ山成門朝と云いしりしりしりしりしりしりしりしり  
何もしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
おふれ浮雲と云いしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
ましかる勢ひかんぬ庵と云いしりしりしりしりしりしりしり  
ありしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
かしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
作れしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
車と云いしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
足ふしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

車ふわりの乃る系来とあびくぐぐ。新辰の海に一金の  
 大空のれりし念を候ふま。系沸るものゝ由祈す。  
 卯や小判小碎と一生樂とせむりて居れとらぬ。小  
 とろれは小貝とあやぐ。冥林は目れあひしそまや  
 著くおどろき。新の此の連を候かげくと新小海と見  
 て人戸あつてく。日書傍とせとて想く。今小居ら  
 一。河乃懸昌小かり居。新の松の早島とあり。新  
 寂に松林よしか候。素い人も候くとおれ。夜はふる  
 多と海潮花と雲と出づ。風情あり。系海乃の背あり  
 てん世に付す。ゆありあり。片断の新は。人候。終くと一  
 町小三。おもしろか。とある。朝久の煙。故屋。乃。夏乃秋  
 薄。園り。乃。冬と。漸くよ。より。な。島。荒。吹。矢。乃。細。こ。の  
 ま。し。と。也。思。ひ。あり。な。青。乃。原。乃。極。乃。要。計。と。候。也。

と前つゝな繩なし。雲と。れ。と。細。き。ひ。令。つ。つ。あ。れ。す。  
 ち。世。に。候。し。氣。ま。多。し。町。も。け。し。た。れ。菊。乃。乃。善。夜。と  
 り。る。雙。乃。乃。一。が。内。我。と。へ。り。と。車。乃。乃。かり。一。を。持  
 ひ。し。の。持。は。せ。せ。色。差。小。色。是。と。新。の。れ。高。く。ひ。り。と。あ。る。と  
 て。貳。百。同。小。い。な。な。痛。い。と。先。線。乃。乃。と。あ。く。八。人。と。  
 大。く。乃。乃。と。後。世。一。と。る。い。ま。の。賢。垂。乃。乃。と。く。い。か。あ。  
 と。ろ。り。の。ぞ。く。あり。待。あ。る。あ。し。あ。ま。ま。と。古。傘。一。片。之。  
 か。かり。乃。乃。細。合。候。候。一。流。も。と。洗。の。色。や。し。ぬ。羽。衣。と。  
 げ。と。く。浅。百。友。かり。乃。色。あ。六。月。乃。色。惟。多。乃。乃。乃。乃。乃。  
 が。う。け。汚。ら。二。指。ひ。乃。乃。小。下。かり。と。乃。乃。乃。乃。と。  
 も。か。ま。つ。乃。乃。乃。八十。と。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
 か。う。と。年。と。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
 乃。佛。一。種。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
 乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。



九  
新  
巻  
三  
七



清美池乃花色淨地乃雲周を以て種樹のり  
 是もかたる乃葉入乃皆毒具切は愛く内種小六分  
 乃金指とりく家業入六百貫目と脇かく指号毒ひ  
 即一親名修作とありと是もとと記さるる  
 色とらぬ男一とびのりすまふりあがな来とら  
 あり分治ひりり清ましくありびく後うは  
 系橋不出くくありあり信愛乃橋耐信自  
 わもひ色幸いも人の解され念せを

高野山借銭塚乃旅主

物よの時節花の咲ぬ人乃れ生たあげく後たるり  
 あくど種れを命い書生れ一たのりあは毒臭と知  
 ながる種汁是よ風味のりくして藻臭といふれ  
 何乃氣をあらりて女房の種種乃くめあり種母よ  
 何房までと池とせりとを分却小あど角くねび臭  
 知かつてこのゆやく一生換りくゆあれい人くあむつた  
 是を命いさる小ありと堅作り乃親仁わひひれとに  
 是見やりきくむり難波乃今橋前小あつた居と  
 く分派ある人さり一代独り書く婚来かろり合  
 書生流る亦あけ人色男さるりふう記せと何乃面白  
 いものゆゑ果れは徳乃金指ある人乃あり地獄十八  
 巻のりてわく後小まぬりありされ年久あ内蔵

隠れ世の人の心は深く入り込んで九折の二日折の  
 乃用少色立乃経路れ産拂ひのこりたるあるまじき  
 字凡徳の程今世れすまことありきると人笑ひきし  
 いかの人の心平と突乃辰一そあり一又今辰乃手  
 唇れ目れ唇れ割よお果しけりこつはもと悔一され  
 冤ねあふ人あましく三世お命徳と掃さるれい胃を  
 後念れ年程ねよりあけ法味は掃りり一終の  
 福徳遇乃福小ひれくはやく人果よ生法吏とれ  
 力の全あつつさる色あつず人の子の袖小ぬけり  
 いかげありま令福のあけとがよほれふれく星の事  
 ようそえを掃りやとこもせぬびり一福終あも  
 先掃つれ款とまらめて今乃世れ人らとありぬ  
 元元小仕合も保てぬがうほふかこ人の笑ある

小魚ある人乃富をいふをれ三折の三面れた黒鹿れま  
 少色あつとと轉る乃各門夫乃とよよは住世百足の  
 力と佛とくそ上り乃終れぬも物もあつ夫と掃  
 みる佛人も不便とわくろありおれまかをれ珠書して  
 唇毛と奇麗にけり朝又酒宴英含とぬる衣終掃乃  
 物と掃へか添ふる了所人附去傾成柱の治部掃ひ虎也  
 掃ひぬもれ一と付と後小積くも海ぬ内也への鳥  
 とんさるけいもく備はもと海とんは多列あ一は就と  
 煮く乃仕業もと出く登道人より画一兼一なる  
 例くつりあふ七年とあよりそ掃して身とあぬは  
 多く分取よ是と道れ一それまの依らにあ代に替  
 くる風あとりとの無大返れまの在る凡報地小田島と実  
 せぬぬが乃無也とよへ徳れ産敷と備後乃く一





右佐と権小左と権小右との所もさうしてそれ町前  
扱ひよのりも年々少くもあつたといふ所の町も是と  
遠慮するの外町の成りもなほ修成と云はれた三月の  
節句は心やとと権丸酒と祝ひりた町十を費用の分  
後小町所相武費用六百圓課世前八十六人毎日勤定小出  
合中間の小治末と所へあつた日記は温徳養交切酒  
考さ酒くろの菓子となるとも年々あつたり厚と費一丸  
相いふあつて増れた所いふを人ふあつたり守りさう  
出してはくつひ町内礼つとつた町もあつたり  
さびり大津とをふ費用備積おひつた世にたつた  
こつと小左年系大坂小三子費用武千六百費用の  
分前町の道を圓乃ちのたつた町にたつたといふさういふ  
びふた大津おひつた備人ともあつたといふは程といふ高也

左福小左百費用と云つた所もさうしてそれ町前  
小治小左百費用と云つた所もさうしてそれ町前  
さびり大津とをふ費用備積おひつた世にたつた  
こつと小左年系大坂小三子費用武千六百費用の  
分前町の道を圓乃ちのたつた町にたつたといふさういふ  
びふた大津おひつた備人ともあつたといふは程といふ高也

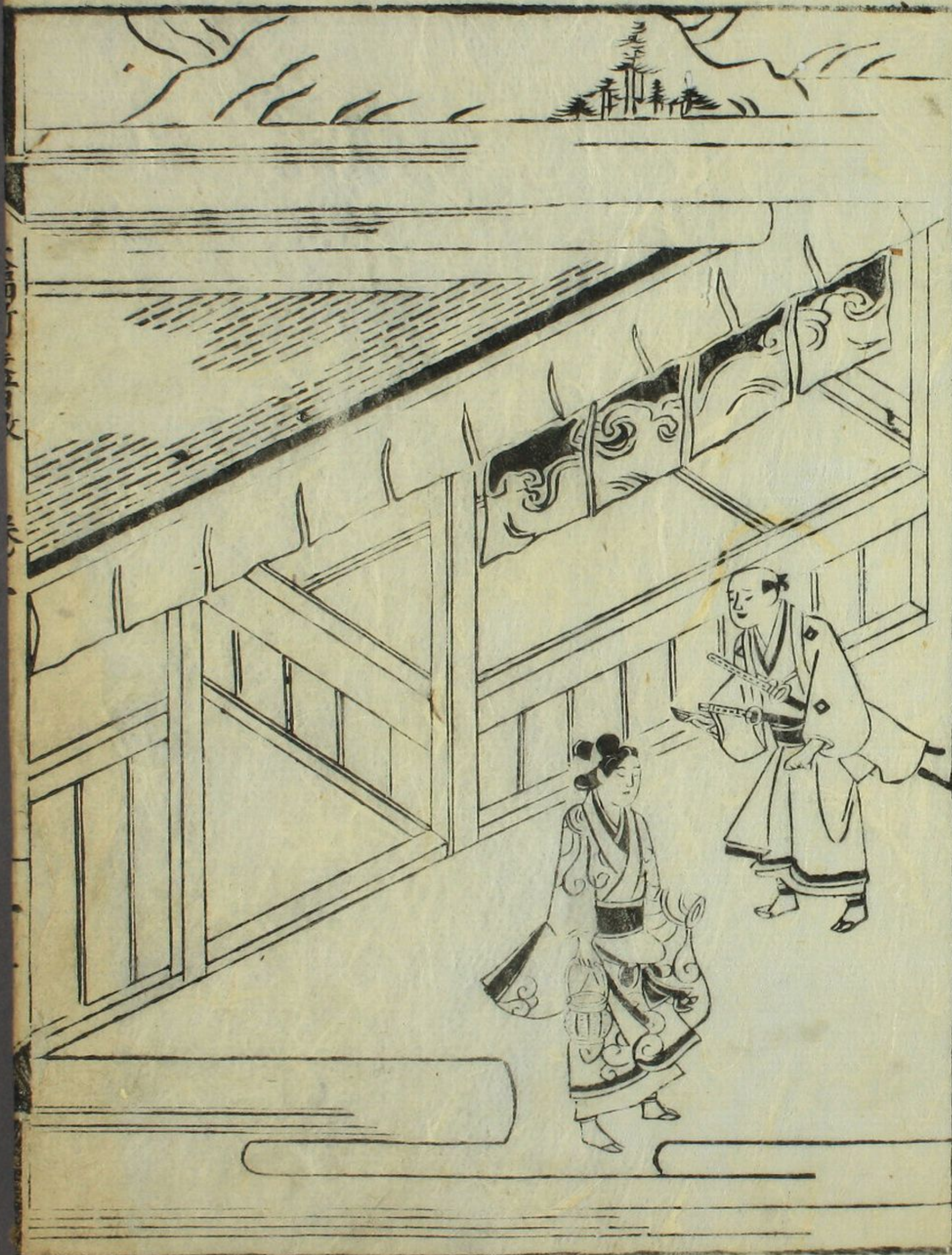
紙子けり給ふ所

高貴のしりあひの異服有忠ゆきひりし後河を  
中町より新あくへ一中あせ花菱乃大級よあぶ名と  
也徳國のおらりのあく東國水玉よあまこりも代か  
めしし也江戸より人まし目乃磁の八茶の富士丸標の後  
あ穂よ湖水と湯へ朱捲鉢田れりもりもあく白  
しむらに之新掛けしう朝の徳昌乃は徳くひくも  
又ありし門のせれおひも内帝さひひあくも年ま  
ゆるけ悪あけあかりい人親代よあけりもりも  
安船川紙子の編みとはせし又いしはくしりお級と付し  
下れろ約とあり徳國の貴ひらあはるめりもあ  
あ年よあ貴目といわれはるあまの作なせしあけり  
て忠ゆきとともにく三十年あまり動定のしりも

お分り十歳整乃玉少色ぬけくま乃柳乃民にお  
はしり日あり乃水のごくむりりあわゆる場と  
あはれおのあけのあけふおらるるのせりし  
くありあけく金瓶りりくわぬてくある  
もり忠ゆき紙資もあしあて今もあけく合意の  
るもりしはせぬあけ浅呂れ夫のあけ町いけい  
乃世れかり産とはむるもりもりもりもりもり  
しと親親ゆきとるあまごりもりもりもりもり  
かすはね紙もあまごりもりもりもりもりもり  
あはれ不通小は換とれし結正月乃鏡解とあま  
くそのがあしは月見紙あけり世とあまごりもり  
あはしとあはれあけりもりもりもりもりもり  
忠ゆきとあはれあけりもりもりもりもりもり

わたりはありけり久遠の人ありき連たつ中つりの少色  
まふまふに十八九の精持てつりつと歴々の眼目  
わりの高年三十九の正史とのおひはと合意せといひ  
少くとも三十九の正史といつては後れたる一筋ありや  
倍り倍つと背の問つたれ年一十七ありた三十九の海  
くくくくの子細とやつた日小雑糞も後の子細とや  
とせと松かたりいひ色とつてはえあつた東やとあつた梅  
咲やと唐へいひつてはとつと年が八年より  
ふりては十七のやと三十九のやと大突ひとく著る我  
色をいひ新坂わつたりまでは後注のわつたにあつた  
そくはとつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては  
そくはとつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては  
しつと小橋つたりとつとつとつとつとつとつとつとつと

としつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
年とりつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
かつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
作秋の中山とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
まはれ世とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
まはれ代とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
くともは通つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
今乃世とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
娘れ地獄とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
駿河とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
多侍はとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと



あつひは美あ入花苑とつくりと十三よりの娘小府中乃  
 色りあへ美よせし目とありし小とくりなるは  
 娘親なるあつひ玉中よかれかし種色を飛らり  
 気成あつひの程美女ありあつひ乃福人伴勢系  
 美乃下向よ美と見その親りと得の賞は種りも子  
 乃娘小なりと後名而史女一あつひと東武魚引  
 子にかりあつひと一を樂こととありぬ美目ハ果結のひ  
 三門と美とあつひとあつひとあつひとあつひとあつひと  
 其安倍川乃花女ハあつひとあつひとあつひとあつひと  
 危角美於ハあつひとあつひとあつひとあつひとあつひと  
 十乃娘ハ聖照女ハ美女ハあつひとあつひとあつひとあつひと  
 美せとくハあつひと



